

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	武庫川女子大学
設置者名	学校法人武庫川学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	日本語日本文学科		2		14	16	13	
	英語文化学科				12	14	13	
	心理・社会福祉学科				12	14	13	
教育学部	教育学科				15	17	13	
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科				13	15	13	
生活環境学部	生活環境学科				14	16	13	
	食物栄養学科				16	18	13	
	情報メディア学科				14	16	13	
	建築学科				14	16	13	
食物栄養科学部	食物栄養学科				13	15	13	
	食創造科学科				13	15	13	
建築学部	建築学科				20	22	13	
	景観建築学科				16	18	13	
音楽学部	演奏学科			13	15	13		
	応用音楽学科			13	15	13		

薬学部	薬学科			20	22	19	
	健康生命薬科学科			14	16	13	
看護学部	看護学科			13	15	13	
経営学部	経営学科			14	16	13	
<p>(備考)</p> <p>生活環境学部食物栄養学科は学生募集停止のため、2022年度に在籍する学生は4年生のみである。従前の教育課程に基づく昨年度(2021年度)3年次開講科目の「実務経験のある教員等による授業科目」の数(単位数)は12であり、2022年度(単位数6)と合計すると18となり、省令で定める基準単位数を満たす。</p>							

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>ホームページ</p> <p>https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/syllabus/2022202120202019daigakujitumu.pdf</p>
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)
なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	武庫川女子大学
設置者名	学校法人武庫川学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

武庫川学院ホームページ 法人役員 https://www.mukogawa-u.ac.jp/~koho/j/files/pdf/index/corporate-officer.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	令和3年5月1日～ 令和5年3月31日	会社経営経験に基づく法人運営への助言、卒業生連携、国際交流促進
非常勤	弁護士	令和4年4月1日～ 令和8年3月31日	経営企画及び私立学校法関連法令
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	武庫川女子大学
設置者名	学校法人武庫川学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p><シラバス作成過程></p> <p>前年度</p> <p>8月 シラバス作成依頼文・作成要領の校正開始</p> <p>10月 シラバス作成要領、作成日程等を会議で諮る 会議後、各教員へシラバス作成依頼</p> <p>12月 学長より各学科長にシラバス点検依頼(予告)</p> <p>11月～1月 各教員シラバス作成</p> <p>1月 各学科長より各学科教員作成のシラバス点検・修正依頼</p> <p>2月 各学科長より学長へ点検結果報告書 提出</p> <p>3月 教育支援システムでシラバス閲覧可能</p> <p>当年度</p> <p>4月 ホームページで公表</p>	
授業計画書の公表方法	<p>ホームページ</p> <p>https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/syllabus/2022/syl1_2022.htm</p> <p>教育支援システム</p> <p>(在籍学生はログインし、シラバスメニューを選択することで授業計画の検索が可能となる。)</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業科目の成績評価における妥当性、信頼性及び公平性を確保するために、「成績評価に関する規程」を設け、教員に配付し、周知徹底を図っている。また学部教授会や成績評価の依頼文書により成績評価の厳格化を説明している。なお、成績評価については評価の妥当性、信頼性及び公平性の観点から、試験及び平素の学習状況(授業内容に関する小レポート・小テスト、口頭発表、レポート課題、実技課題及び授業への積極的な参加度など)を総合して行うものとしており、あらかじめシラバスに評価方法を明示し、その評価方法・基準に従って厳格かつ適正に評価している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価基準に基づき、信頼性及び公平性を確保した厳正な成績評価がおこなわれている。GPAは予め設定した算出方法により算出し、成績証明書や父母等宛て成績通知書に記載している。また学生が、自らの学業成績の状況を的確に把握し、適切な履修計画とそれに基づく学習への取り込みに役立つように、教育支援システム(Web)でGPAに基づいた学科内順位やクラス内順位を本人に開示している。それにより、相対的な学力の状況を学生自身が確認できる。GPA算出方法は紙ベース(Student Guide 2022)及びホームページで公表している。また、令和元年度前期の成績から「科目別成績状況一覧」により、成績分布状況をホームページで公表している。</p> $\text{GPA} = \frac{(\text{履修登録した科目}^* \text{のグレード} \cdot \text{ポイント} \times \text{単位数}) \text{の総和}}{\text{履修登録した科目}^* \text{の単位数の総和}}$ <p>※ 履修登録した科目には、不合格科目も含む。卒業非算入科目はGPA対象外(ただし、資格課程科目はGPAの対象となる)。</p> <p>これらの取組は、全学部同様の取扱いで行われている。 添付資料「成績の分布状況を示す資料」</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>Student Guide 2022- For Academic Studies - https://www.edusys.jp/mukogawa-u/digitalbook/sg_daigaku/#target/page_no=89</p> <p>ホームページ：成績評価 https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/grades/index.html#grades01</p> <p>ホームページ：成績情報の公表 https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/grades/index.html#grades03</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>武庫川女子大学は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性を育成するため、本学の教育目標に掲げる以下の資質・能力を身につけ、所属する学部・学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら課題を見つけ、解決のために実践できる。 2. 主体的に学ぶ習慣、論理的に考える力を身につけている。 3. 幅広い教養に裏付けられた豊かな心を身につけている。 4. 高い倫理観に支えられた実践力・指導力を発揮できる。 5. 専門的知識を修得し、それらを活用することができる。 	

卒業の認定に関する 方針の公表方法	ホームページ https://www.mukogawa- u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/unive rsity/policy/university_policy.pdf
----------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	武庫川女子大学
設置者名	学校法人武庫川学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.mukogawa-u.ac.jp/~koho/financial.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.mukogawa-u.ac.jp/~koho/financial.html
財産目録	https://www.mukogawa-u.ac.jp/~koho/financial.html
事業報告書	https://www.mukogawa-u.ac.jp/~koho/financial.html
監事による監査報告(書)	https://www.mukogawa-u.ac.jp/~koho/financial.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/evaluation/saiten.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: http://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/evaluation/hyouka.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html ）
（概要）文学部は、人間の本質と文化的所産を人文諸科学の観点と方法により探究し、探究の過程と成果に基づき、時代と社会の要請に応じうる有為な女性を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_bun_policy.pdf ）
（概要）武庫川女子大学文学部は、人間存在の本質および人類が創り出した文化全般につき人文諸科学の観点と方法を用いて探究し、その過程と成果を通して、現代から未来にわたる社会の要請にこたえる有為な女性を育成します。以下の資質・能力を身につけたうえで所属する学科において卒業要件を満たし、学長が卒業を認定した者に、それぞれの専攻分野の名称を付記した学士の学位を授与します。 <ol style="list-style-type: none">1. 独自に課題を発見し、解決に導くために創意工夫して主体的に実践することができる。2. 主体的に学ぶ意志と習慣を持ち、論理的に思考する力を身につけている。3. 幅広い教養に裏付けられた豊かな感性を備えている。4. 高度の倫理観と使命感に支えられた実践力・指導力を発揮することができる。5. 専門的知識を修得し、それらを社会の諸方面で実践的に活用することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawau.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_bun_policy.pdf ）
（概要）武庫川女子大学文学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身につけた人材を育成するために、体系的かつバランスのとれた教育課程を編成し、学習者の知的好奇心を涵養するとともに主体的積極的な学びを促します。 学習者は、「共通教育科目」「基礎教育科目」「専門教育科目」および「特別教育・資格関係科目」にわたって計画的に履修し、1つ1つの科目の学びがもたらす意義を自覚して、知識・技能・判断力を養成します。 「基礎教育科目」では専門教育への導入的役割を担う授業を開講します。 全学的に実施している「初期演習」は、学生が主体的に学び、実践する姿勢を身につけるとともに、コミュニケーション能力を高め、学生相互の豊かで円滑な人間関係の構築を目指します。 そのほかの科目では、専門分野の学びの基礎となる知識を修得し、倫理観を育成する教育を行います。 「専門教育科目」ではそれぞれの学科における専門知識を修得し、さらにその知識を体系的に統合して実践的に応用する能力を養います。そうして得られた学識と能力とを駆使して、最終学年では卒業論文に結実させます。 教育課程の編成にあたっては、開講学年・配当学期・科目ナンバリングをあらかじめ示すことで科目間の順次性・体系性を確保します。また、開講科目に設定される知識と技術を修得し、その実践的活用を可能にするために、アクティブラーニングなど学習者の能動的学習を促す教育手法を活用します。 各科目の学修成果の測定と評価にあたっては、学習者に対してあらかじめ評価指標を明示し、適切かつ公正な評価を実施します。また、卒業論文をもって教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_bun_policy.pdf）</p>
<p>（概要）武庫川女子大学文学部は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能・資質・意欲を備えた女性を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校までの教育課程を偏りなく修得し、十分な基礎学力を身につけている。 2. 人文諸科学の学修研究に積極的に取り組む姿勢と意欲を持っている。 3. 将来に向けての見通しと目的意識を確立している。 4. 豊かな感性と公平な視点を持ち、考え方の異なる他者とも協同して活動することができる。 <p>また、開設する学科のそれぞれの専門性やディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を持つ人材像に対応する、透明性の高い公正な入学者の選抜試験を複数の機会および方法で行います。</p>

<p>学部等名 教育学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawau.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html）</p>
<p>（概要）立学の精神と教育推進宣言に則り、教育学部は、平和で民主的な社会の形成者として、新しい時代の要請を視野に入れつつ教育についての理論と実践を学び、教育界に貢献する女性の育成を目的とする。この目的のもと、豊かな人間性と創造的能力を基礎に高い資質・能力を有し、人間としての優しさを身につけた教育者を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_bun_kyou_policy.pdf）</p>
<p>（概要）本学部では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（教育学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ol style="list-style-type: none"> 1-1 現代の教育・保育を支える教養的知識を幅広く有している。 1-2 教育・保育に関する奥深い専門的知識を有している。 2. 技能・表現 <ol style="list-style-type: none"> 2-1 教育・保育の実践を行うために必要な技能を有している。 2-2 教育・保育に関わる多様な人々と積極的にコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。 3. 思考・判断 <ol style="list-style-type: none"> 3-1 国際的視野に基づいた批判的思考力および創造的能力を備えている。 3-2 教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考と理性的な判断ができる。 4. 態度・志向性 <ol style="list-style-type: none"> 4-1 教育・保育に関わる熱意と責任感を身につけている。 4-2 教育・保育に関して、生涯にわたり学び、研究し続ける力を身につけている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawau.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_bun_kyou_policy.pdf）</p>

(概要) 本学部は、学生一人ひとりが自らのキャリアプランに則して履修することで、幅広い教養と奥深い専門的知識に基づく思考力や判断力を養い、教育・保育実践のために必要な熱意や責任感、そして技能を身につけることをめざします。

本学部が掲げる教育目標とディプロマ・ポリシーを達成するため、「小学校教育コース」、「小学校・中学校教育コース(国語専修・英語専修)」、「幼児教育・保育コース」および「国際教育コース」という4つのコースを設け、「共通教育科目」「基礎教育科目」

「専門教育科目」にわたって、「学科演習科目」「初年次コース共通科目」、コースごとの「基礎プログラム」「発展プログラム」などからなる教育課程を編成します。

「共通教育科目」は、現代の教育・保育を支える幅広い教養的知識を身につけ、的確な判断力を養うとともに、人間性の涵養を図るための科目群です。

「学科演習科目」は、1年次から4年次までを通して、クラス担任またはゼミ担当教員の指導のもと、問題や課題を解決する力とともに、学生が自ら調べ、考え、まとめ、表現する能力を養う科目群です。

「初年次コース共通科目」は、1年次に開講され、現代の教育・保育を支える幅広い教養的知識を身につけ、的確な判断力を養うとともに、人間性の涵養を図るための科目群です。

「基礎教育科目」は、主に1年次に開講され、外国語運用能力や情報処理能力、健康や運動に関する知識や技能など、学士として必ず身につけておかなければならない資質の基礎を養う科目群です。また、4つのコースに分かれる前の共通科目として開設され、教育者・保育者になるための基礎となる科目群です。

「専門教育科目」は、主に2年次以降に開講され、4つのコースに分かれて履修します。全コースに、「基礎プログラム」と「発展プログラム」が設けられています。

「基礎プログラム」は、小学校、中学校あるいは幼稚園教諭としての知識・技能・態度を身につけるため、教育職員免許法に基づいた必修科目および選択科目で構成されています。

「発展プログラム」は、一人ひとりの「強み」を育てるために選択必修あるいは選択科目により構成されています。それぞれのコースにおいては、教育に関する基礎理論や教科内容論に関する科目、保育内容の基礎的科目をはじめとして教科指導法などの応用的・実践的な科目や、より専門的な内容の科目への履修へと進み、さらに教育・保育実習、教職実践演習を履修するというように、適切な順序性をもって開講期を設定します。発展プログラムでは、学生自らが「強み」を身につけるために主体的に選択して学べるように、いずれのコースにおいても多彩な選択科目を開設します。

副免許・資格プログラムとして、小学校教育コースには「幼稚園教育プログラム」と「特別支援教育プログラム」を、幼児教育・保育コースには「保育士プログラム」を、国際教育コースには「中学校教育(英語)プログラム」を設け、教育職員免許法・児童福祉法施行規則に基づいた科目を履修できるようにします。

ただし、各コースで学ぶべきことを適切な順序性を持って学べるように、基礎免許のための必修科目は3年次後期の「教育実習」までに集中的に学び、副免許のための必修科目は主に3年次後期から4年次にかけて履修できるように開講期を設定します。

国際教育コースには、グローバル化に伴う教育ニーズや教育環境の変化に応える人材を育成するため、多文化共生社会への移行、国際的な教育援助、海外(帰国)子女教育、グローバル・シティズンシップ教育を担い、国際的に貢献できる教育者を養成する「国際教育プログラム」を設けます。

2年次後期には、希望者を対象に、海外の教育を体験的に学び、英語運用能力を高めるMUSC留学プログラムがあります。

教育課程全般を通じて、グループ・ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等のアクティブ・ラーニングの教育方法も活用し、学生の理解と実践力を高めます。教育課程の評価については、卒業研究および教員免許に係る実践演習科目における学修状況をもって教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:大学ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_bun_kyou_policy.pdf)

(概要) 本学部・学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。

本学部・学科が育成しようとする資質・能力の基礎となる学力や思考力・判断力を有し、教育や保育について明確な目的意識を持って積極的に勉学に励もうとする意欲ある女性を受け入れます。また、本学部・学科では、小学校教諭一種・幼稚園教諭一種・中学校教諭一種（国語）（英語）・特別支援学校教諭一種免許状および保育士資格が取得できますので、特に教員や保育者として活躍するための資質・能力を高めようとする熱意や責任感を有する者を受け入れます。高い資質・能力を持つ教員または保育者となるためには、文系・理系という枠組みに捉われず、国語、英語、日本史、世界史、数学、化学、生物などの科目を幅広く履修し、確かな基礎学力を備えておくことを求めます。

学部等名 健康・スポーツ科学部
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawau.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html）</p> <p>(概要) 健康・スポーツ科学部は、科学的知識に裏づけられた体育・スポーツの研究と、その実践を通して、心身の健康並びに体力の保持増進について指導的役割を担う、幅広い分野の健康・スポーツに関わる指導者、保健体育に関わる教育者を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawau.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_ken_policy.pdf）</p> <p>(概要) 本学部では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って 124 単位以上を修得し、国際的な広い視野と高い倫理観を持ち、なおかつ次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（健康・スポーツ科学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ol style="list-style-type: none"> 1-1 健康・スポーツに関する基礎的・専門的な知識を修得している。 1-2 健康・スポーツに関する幅広い見識を得るとともに、体系的に整理・理解している。 1-3 健康・スポーツの実践・指導・管理のための適切で正しい方法を理解している。 2. 技能・表現 <ol style="list-style-type: none"> 2-1 健康・スポーツを実践・指導・管理するにあたり基本的・専門的スキルを有している。 2-2 知性・情操・徳性の涵養と、施すべき対象へのコミュニケーション能力を身につけている。 3. 思考・判断 <ol style="list-style-type: none"> 3-1 実践力を向上させるための、論理的・実証的に思考する能力を身につけている。 3-2 指導現場においては、成果を得ることが大切であり、そのための問題解決の能力を身につけている。 3-3 指導現場においては、安全第一が基本であり、そのための状況判断を有している。 4. 態度・志向性 <ol style="list-style-type: none"> 4-1 学修の価値を正しく評価し、国際的な視野に立ちながら常に向上的態度を保ち続けている。 4-2 高い倫理観に基づき、健康・スポーツ指導者・実践的リーダーとして、強い意欲と意志を持っている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawau.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_ken_policy.pdf）</p>

(概要) 本学部では、学校や企業、地域社会で活躍できる優れた健康・スポーツの実践者・指導者・管理者を育成するための、最新のスポーツテクノロジー・医科学理論・指導理論・マネジメント理論を踏まえた適切で正しい実践・指導・管理法を、科学的・専門的に学ぶことができます。

本学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために次の方針で教育課程を編成します。健康・スポーツに関わる実践者・指導者・管理者に必要な基礎理論と技術を講義・演習科目で学び、それに基づく技能を学内実習科目で磨き、最終的には学外の現場実習科目で応用するという、段階的・発展的な学習ができる科目配置を行っています。

また、健康・スポーツに関する知識と技能を体系的に学修するために、学科開講科目に「学科共通」科目と「スポーツ教育領域」「スポーツ科学領域」「スポーツマネジメント領域」「健康スポーツ領域」の4つの領域科目を設定します。

「学科共通科目」健康・スポーツ科学を学ぶ者に共通して必要となる、基礎的・専門的知識および技能を身につけることができます。

「スポーツ教育領域科目」中学・高等学校保健体育科教員を目指す者に必要な、充実した体育授業を実践できるための理論と技術を身につけることができます。

「スポーツ科学領域科目」コーチやアスレティックトレーナーを目指す者に必要な、競技力向上のための優れたコーチングとトレーニング指導、スポーツ傷害・外傷予防の理論と技術を身につけることができます。

「スポーツマネジメント領域科目」スポーツビジネスを目指す者に必要な、経営・企画・販売・管理の理論と技術を身につけることができます。

「健康スポーツ領域科目」健康運動指導士や健康運動実践指導者を目指す者に必要な、スポーツ、運動、身体活動を通じた健康支援の理論と技術を身につけることができます。

また、学びの方向および卒業後の進路等を意識させるために、2年次より「スポーツ教育コース」「スポーツ科学コース」「スポーツマネジメントコース」の3コースを設けています。各コースに設置された特色科目を学ぶことによって、より専門的に、より実践的に、優れた健康・スポーツのリーダーを育成します。

「学科共通科目」および「健康スポーツ領域科目」は、3コースいずれでも履修できます。なお、資格のうち、アスレティックトレーナーは「スポーツ科学コース」に所属した者のみが取得可能です。

さらに、このような通常学期のカリキュラム以外に、特別学期における学科プログラムにあっては、健康・スポーツ科学演習やその予備演習、教職や各種資格の試験対策講座を開講します。

本学部では、以上の教育課程全般において積極的にアクティブラーニングを取り入れて能動的に学修する態度を養い各科目における「知識・理解」「技能・表現」「思考・判断」「態度・志向性」の枠組みで示した能力・資質についての評価および卒業研究によってディプロマ・ポリシー達成の評価を総括的に行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_ken_policy.pdf）

(概要) 本学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。

本学科は、「Sports for All の時代をリードできる人」を養成するという教育目的を持っています。したがって、健康・スポーツを科学的・専門的に学ぼうとする強い意欲を持ち、次のような現場において活躍・貢献しようとする学生の入学を求めます。

- ①教育および生涯学習における運動指導現場において、健康・スポーツ教育の充実に貢献しようとする者
- ②競技スポーツにおけるジュニア期以降のスポーツ指導・サポート現場において、優れたコーチングとトレーニング指導によって競技力向上に貢献しようとする者
- ③地方自治体や企業・民間のスポーツ施設における施設・プログラム管理現場、医療・福

<p>社施設・幼児施設等における運動・フィットネス指導現場において、スポーツ・運動・身体活動を通じた健康支援に貢献しようとする者</p> <p>④スポーツ関連の企業や団体、スポーツイベントの企画・運営などのスポーツビジネス分野で活躍しようとする者</p> <p><入学時まで身に付けてほしい学力・能力></p> <p>本学科は、競技力の向上や健康で豊かな社会の構築に関わる幅広い指導者養成のため、健康・スポーツを科学的・専門的に探求する多様な学修を展開しています。そこで主体的な勉学の習慣に加えて、大学入学時まで、次のような学力や能力、スポーツの実践力を研ぎ、入学後の学修に臨むことを求めます。</p> <p>1) 知識・技能および思考力・判断力・表現力</p> <p>①国語や英語などで学ぶ読解力・構成力・論理的表現力と、そこから得られるコミュニケーション力</p> <p>②地理歴史や公民などで学ぶ基礎的な知識と、そこから得られる社会を読み解く力</p> <p>③数学や理科などで学ぶ基礎的な知識と、そこから得られる論理的・科学的な思考力</p> <p>2) 主体性を持って多様な人々と協働する力</p> <p>①集団活動における主体性、コミュニケーション力、リーダーシップ、高い倫理観</p> <p>3) 体育やスポーツ分野における実践力</p> <p>①各種スポーツの技術・技能、スポーツの実践力とそれに係る体力、スポーツ実践の経験知</p>

<p>学部等名 生活環境学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawau.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html）</p> <p>（概要）生活環境学部は、人間が生活空間において生き、情報を利用して多様な生活を選び、さらに快適で美的な生活環境を築く知識と知恵を生み出すことのできる有為な女性を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_sei_policy.pdf）</p> <p>（概要）本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を各学科所定の履修方法に従って124単位以上修得し、各学科で定める能力・資質を備えた者に対して、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業を認定された者には、学士の学位を授与します。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_sei_policy.pdf）</p> <p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科においてディプロマ・ポリシーを達成するために、各学科分野について、多様な方向からアプローチしていくとの方針に基づき、カリキュラムを編成します。 高等学校までの学習知識を基に、各学科での専門知識へスムーズに移行できるよう、体系だったカリキュラム編成をおこなっています。 生活環境分野において、社会において、指導的立場となる人間力を身につけるため、全学的な共通教育の受講を奨励しています。 日本を代表する生活環境文化を育んできている〈阪神間〉に立地する大学の特色を生かし、地域連携的教科目（例えばフィールドワーク科目や地域を教材とした課題など）を特色としています。 双方向的学修（例えばゼミ）を重視し、原則4年間の学修の集大成として、卒業研究（論文・制作・設計など）を必須としています。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_sei_policy.pdf）</p>
<p>（概要）人間が快適で美的な生活環境を築く知識と知恵を生みだすことを目的にした分野を学ぶ本学部は、生活環境学科・情報メディア学科の2学科より構成し、次のような資質をもつ入学者を受け入れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「立学の精神」とそれに基づいて教育目標に賛同し、生活を科学的に考え、生活をより豊かにすることに関心のある女性を求めます。 ・さらに各学科が定める卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、各学科が掲げる知識・技能・意欲を備えた女性を求めます。
<p>学部等名 食物栄養科学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html）</p>
<p>（概要）栄養士・管理栄養士の基礎資格の基礎から応用までの科目を修得させ、実践力と応用力を有する人材育成を実施する。さらに食物栄養科学科では、あらゆる人々に対して食による予防・医療栄養を遂行できる指導力のある人材、また食創造科学科では国内外の食産業界で第六次産業をグローバルな発想力で企画運営できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_syoku_policy.pdf）</p>
<p>（概要）本学部では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って124単位以上を修得します。食物栄養学科・食創造科学科のそれぞれが定める能力・資質を備えた者、つまりヒトを対象としてあらゆる状況に対応して栄養管理能力を有する者、国内外の食材料の特質に基づき食品の製造・管理・製品化や新しい食品開発の能力を有する者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。</p> <p>卒業が認定された食物栄養学科の者には、学士（食物栄養学）の学位を、卒業が認定された食創造科学科の者には、学士（食創造科学）の学位を授与します。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_syoku_policy.pdf）</p>
<p>（概要）本学部のカリキュラム編成は、まず、全学の方針に従い「共通教育科目」「基礎教育科目」および「専門教育科目」から編成します。</p> <p>共通教育科目は、歴史的に蓄積された思想や学問について広く基礎を学び、変化の激しい現代社会において的確に判断できる知性および知識・技能の修得、真摯な学習と実践を通じ、思いやりと心の豊かな感性をもつ自律的な個人の確立を目指しています。さらに専門教育との有機的な連携に努力し、卒業後、様々な分野で社会をリードする女性を育成することも目的として編成します。</p> <p>基礎教育科目ならびに専門教育科目は、管理栄養士・栄養士養成のために厚生労働省によって定められている科目を配置し、さらに食物栄養学科・食創造科学科の教育目的を実現するために、それぞれの学科において、自らのキャリアプランに即して履修することで幅広い教養と専門的知識に基づく思考力や判断力を養い、人々の健康や安全な食生活を実践するために必要な熱意や責任感、そして技能を身につけることを目指しているため、専門的かつ体系的な教育課程を設けています。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.mukogawa-</p>

<p>u. ac. jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_syoku_policy.pdf)</p> <p>(概要) 本学部は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識と技能、意欲等を有する女性を求めます。</p> <p>知識と技能については、高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する者、もしくは同等の知識と技能を有する者を求めます。</p> <p>具体的には、入学前に、栄養学や食品学の基本となる化学（化学基礎・化学）および生物（生物基礎・生物）において十分な基礎学力を有していることと、化学や生物だけではなく「管理栄養士」として、あるいは「食の専門家」として、必要な問題解決能力や実践的能力を得るため、国語、外国語、数学、地理歴史、公民等の科目も幅広く学習していることを求めます。</p>
<p>学部等名 建築学部</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html）</p> <p>(概要) 「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使い易く、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力を培うことを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_kentiku_policy.pdf）</p> <p>(概要) 本学部には、建築学科・景観建築学科の2学科があります。本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を各学科所定の履修方法に従って128単位以上を修得し、各学科で定める能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業を認定された者には、学士の学位を授与します。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_kentiku_policy.pdf）</p> <p>(概要) 本学部では、学部・各学科のディプロマ・ポリシー（学習・教育到達目標）を卒業時に達成できるよう、共通教育科目・基礎教育科目・専門教育科目からなり、128単位を卒業要件とする教育課程を編成します。両学科ともに、一級建築士受験資格の学歴要件と、JABEE（日本技術者教育認定機構）が定めるエンジニアリング系学士課程の認定基準を、卒業時に満たす教育課程となります。</p> <p>各学科のカリキュラムの特性に合わせ、スタジオでの一対一の対話型演習、中間講評や講評会における発表や教員の講評、講義、小テスト、実験・実習、レポート、建築・庭園・町並み、工事現場の見学等といった学修方法を組み合わせることにより、学生の理解を高めます。</p> <p>また、卒業年次に提出する卒業設計・卒業論文およびその発表をもって、教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_kentiku_policy.pdf）</p>

(概要) 本学部は、建築学科・景観建築学科の2学科より構成し、次のような資質を持つ入学者を受け入れます。

「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、社会に貢献できる建築・景観設計技術者を目指そうとする女性を求めます。さらに各学科が定める卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、各学科が掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。

学部等名 音楽学部

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ
https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html）

(概要) 音楽学部は、理論と実践を通じて、音楽知識・技術及び東西文化の普遍的な美的価値観を追求するとともに、音楽応用を探究し、文化・社会の発展に寄与する音楽家をはじめ、音楽の指導者、音楽応用の専門家を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ
https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_on_policy.pdf）

(概要) 本学部では、“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を備え、音楽を実践する上で必要な技能・知識を有し、様々な環境・文化の中で社会に貢献できる人間性に基づいて自立した音楽の専門家となる能力を修得し、所属する学科での審議および学部教授会を経て学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士の学位を授与します。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ
https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_on_policy.pdf）

(概要) 本学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、音楽の専門家養成の方針に基づき、カリキュラムを編成します。

音楽によって社会を豊かにするため、音楽関連科目を主軸にした幅広い分野を総合的に学習するカリキュラムを組みます。

基礎教育科目では、語学や情報処理・活用のスキルなどの向上を目指す科目のほか、アクティブ・ラーニングにより論理的思考力やコミュニケーション力を高める科目を設定します。

専門教育科目では、音楽実技や理論、音楽史などを専修に応じて演習や実習を含む様々な形で学習します。

社会に貢献できる女性を育成するため、系統的に科目を設定します。学習を積み重ねることによって、社会で活動する上で必要な音楽的技術や知識を身につかせます。

卒業時の卒業演奏や卒業論文をもって、教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_on_policy.pdf）

(概要) 本学部は、「立学の精神」や教育目的に賛同し、本学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性の入学を求めます。

- ①音楽を深く愛する心と明確な目的意識を有している。
- ②幅広い教養と基礎学力を有し、音楽に関する専門家として社会に貢献したいという強い意欲を持っている。
- ③高度な専門性と深い知識や技術、教養を身につけるために、勉学に励み研鑽を積む積極性を持っている。

④人間性およびバランスのとれた国際感覚を備えた音楽に関する専門家を目指す意欲を持っている。

学部等名 薬学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html ）
（概要）薬学部は、幅広い教養と人間性豊かな専門知識を基盤として、医療と薬並びに健康に関する多様な分野で、医療人としての薬剤師をはじめ、薬の創製・管理、衛生薬学、薬事行政などの諸活動を通して、薬学に課せられた社会的使命を遂行し得る有為な女性を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_yaku_policy.pdf ）
（概要）武庫川女子大学の立学の精神を実現し、薬学部の教育理念およびカリキュラム・ポリシーに基づいて設定された科目を学修し、薬と健康に関わる多様な職種の専門家に必要とされる知識・技能・態度を身につけ、薬学科にあつては6年以上在学し、卒業に必要な単位数（190単位以上）を修得した者、健康生命薬科学科にあつては4年以上在学し、卒業に必要な単位数（124単位以上）を修得した者に対して、それぞれ卒業を認定し、「学士（薬学）」と「学士（薬科学）」の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_yaku_policy.pdf ）
（概要）本学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような人材養成の方針に基づき、カリキュラムを編成します。 教育目標を実現し、薬に関する幅広く高度な専門知識と優れた臨床能力を兼ね備えた薬剤師、高度な薬学的専門知識と科学的思考力を身につけ、薬学分野で広く研究・技術開発などに貢献できる多様な研究者・技術者人材を育成するために、教養科目・語学教育科目・基礎科学科目に続いて、年次的に専門性を高め、卒業後のキャリアに直結した「学習成果基盤型教育（outcomebased education）」を実施します。 教育課程全般を通じて、通常の講義科目だけでなく、実習、問題演習、双方向型授業といった教育手法を活用し、学生の理解を高めます。 また、教育課程の評価については、卒業年次に提出する卒業研究論文などをもって教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：公表方法：大学ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_yaku_policy.pdf ）
（概要）本学部は、「立学の精神」とそれに基づく教育目標に賛同し、かつ修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）およびその教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。 1）自主的・積極的に勉学する態度や習慣や考える力を身につけ、生涯にわたり勉学を続ける意欲がある。 2）人を思いやり、人のために尽くす精神を有し、常に自己を磨くことに努力を惜しまない。

- 3) 自然科学への強い関心と探求する心を持ち、科学的事実に基づいて自らの考察と行動をすることに努力する。
- 4) 薬剤師業務、新薬の創製・開発、医薬品の管理・情報提供、衛生薬学そして薬事行政などの職業に魅力を感じ、これらの職業を通して人のために貢献しようとする情熱がある。
- 5) 高等学校までに学ぶべき事項を幅広く修得し、入学後の学修に必要な基礎科学力と英語力を身につけている。

学部等名 看護学部
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html）</p> <p>（概要）豊かな人間性に裏づけられた感性を生かし、様々な健康レベルの人々（患者）を生活者としてとらえ、豊かな人間性と高い倫理観、科学的根拠に裏づけられた行動力をもって、心身両面にわたってトータルケアのできる未来志向の看護実践者を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_kang_policy.pdf）</p> <p>（概要）本学部では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って127単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（看護学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ol style="list-style-type: none"> 1-1 人の生活を理解するための幅広い教養や基礎知識を身につけている。 1-2 生活者としての人を支援するために必要な専門的知識を習得している。 2. 技能・表現 <ol style="list-style-type: none"> 2-1 生命の尊厳と人権尊重を基盤とした倫理観と人の価値観を尊重したコミュニケーション能力を身につけ、援助に必要な看護技術を実施できる。 3. 思考・判断 <ol style="list-style-type: none"> 3-1 人の生活や健康を支える様々な要因（身体心理社会的）についての情報を収集し、分析することができる。 3-2 援助が必要な人の状態を明確にして、援助の根拠を特定することができる。 3-3 生活および医療全般にわたって、その人に起こりうる事態を予測し、論理的思考力と的確な問題解決能力に基づいて、最善策を導き出すことができる。 4. 態度・志向性 <ol style="list-style-type: none"> 4-1 プロフェッショナルな看護師として社会に貢献する意欲を持っている。 4-2 看護師として、生涯にわたって自分を高めていこうとする強い意思・意欲を持っている。 5. 看護実践力・多職種間連携能力 <ol style="list-style-type: none"> 5-1 他の医療職者や福祉関係の職種との連携を理解し、その人や家族への援助ができる能力を身につけている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_kang_policy.pdf）</p>

(概要) 本学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような教育内容に基づき、以下の3つからカリキュラムを編成します。

1. 「共通教育科目」

- ・人の生活や生命、それを取り巻く社会や文化・環境といった幅広い教養を学び視野を広げる科目
- ・看護を行う上で必要不可欠な科学的な思考、論理的な思考力、コミュニケーション能力を身につける科目
- ・女性として社会人としてキャリアを積み上げていくために必要な基本的態度を身につける科目

2. 「基礎教育科目」

- ・人の身体を理解し、健康や病気、障害に関する観察力や判断力を養うとともに、看護を行うときの根拠や必要性を考えることができる科目
- ・人の健康や障害の状態に応じて活用できる保健医療福祉サービスを理解するための科目
- ・看護を学ぶ基礎として、保健医療の関連情報の分析や国際的な視野で情報を得るための情報活用技術や英語力を身につけるための科目

3. 「専門教育科目」

- ・高度先進医療から在宅医療に至るまでの治療の目的を理解する科目
- ・生活者としての人を支えるために必要となる知識と技術を学修する科目
- ・必要な看護実践を計画し、看護実践能力を育成する科目

教育課程全般を通じて、講義・演習・実習といった授業形態により、看護学の知識・技術・態度の要素を統合的に養います。

各専門科目それぞれで、対象者の人権尊重などの倫理的な視点および行政・施策に関する内容が含まれます。

また、教育課程については、統合看護学実習と修了年次に提出する卒業論文、卒業論文の研究発表・討議をもって、教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。

こうした看護学の学習により、本学部が目指すところである援助の対象者を「生活者」と捉え、生活の質(QOL)と治癒の促進を考慮しながら科学的な根拠に基づいた看護を導くための基盤づくりを可能とします。

なお、本学部では、所定の授業科目を修得することで、看護師の国家試験受験資格を得ることができます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_kang_policy.pdf）

(概要) 本学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能・意欲を備えた女性を求めます。

<求める人材像>

1. 看護師として保健・医療・福祉分野へ貢献する意欲がある人
2. 人の気持ちや考え方を尊重し、人間関係を築こうとする行動力のある人
3. 自ら進んで学習を続けていける人
4. 柔軟な考え方ができ、看護を探究していける人
5. 人間の理解の基本となる基礎学力（生物・化学・数学・英語・国語など）を身につけた人

学部等名 経営学部

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html）

(概要) 本学院が掲げる立学の精神、教育目標、教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養とグローバル化する社会への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、経営全般に関する専門的知識と実践力を有し、どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続け、国内外のビジネス社会で活躍できる人材を養成することで、“しなやかな女性キャリア”の実現に貢献することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_keiei_policy.pdf)

(概要) 本学部・学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（経営学）の学位を授与します。

1. 知識・理解

- 1-1 経営学に関する基礎的・専門的知識を有し、多様な経営課題を的確に理解できる。
1-2 自らが目指す将来キャリアで活躍するために必要な基礎的・専門的知識を習得している。

2. 技能・表現

- 2-1 自らの暮らしを環境にあわせて柔軟にデザインするための技能を習得している。
2-2 他者と協力的な関係を構築するコミュニケーション能力を習得している。

3. 思考・判断

- 3-1 広い視野を持ち、女性の特性・視点を活かして考え、イニシアティブをとることができる。
3-2 グローバルな視点とローカルな視点の双方から考え、判断することができる。

4. 態度・志向性

- 4-1 女性として社会で活躍するための生活様式と価値観を備え、その実践に強く動機づけられている。
4-2 他者の歴史・宗教・風俗習慣などに基づく多様な文化を理解し、人と協力的な関係を構築する意欲を備えている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_keiei_policy.pdf)

(概要) 本学部・学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教育科目」「基礎教育科目」および「専門教育科目」からカリキュラムを編成します。

(1) 大学教育へ導入を円滑にし、学びにおける準拠集団を構成するために、基礎演習を必修科目として1年次と2年次に配置します。

(2) 大学での学びに必要な基礎力を養成するため、実践的な「英語」と「情報リテラシー」科目を必修科目として1年次に配置します。

(3) 主体的で能動的な実践力を養うため、実践科目を充実させるとともに、その実践に必要な知識・態度・技術を養成する「実践へのいざない」を必修科目として1年次に配置します。

(4) 高度な学びの準拠集団を構成し、総合的な実践力を養う教育・研究の場として、「専門演習」を必修科目として3年次と4年次に配置します。

(5) 学生が、大学での学びを集大成し、後進への知見を残すものとなる「卒業研究」を必修科目として4年次に配置します。

(6) 専門教育科目への導入的役割と専門教育での学びの基礎をつくる科目として、「経

営学入門」「会計入門」「マーケティング入門」「パブリックマネジメント入門」「ビジネスシンキング」および「キャリアデザイン特講Ⅰ」の必修科目を含む基礎教育科目を1年次と2年次に配置します。

(7) 学生が目指す将来キャリアの方向を3つの学びの分野（「ビジネス・デザイン・スタディーズ」「グローバル・マネジメント・スタディーズ」および「パブリック・マネジメント・スタディーズ」）に集約し、高度な知識・態度・方法論を備えた人材養成のコアとなる専門科目群を構成し、2年後期以降の選択科目として配置します。

(8) 幅広い教養と人間理解の礎となる全学共通教育科目を充実させ、選択科目として初年次から履修できるようにします。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2022/pdf/university/policy/u_keiei_policy.pdf）

（概要）本学部・学科では、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能、能力、態度、興味・意欲を備えた女性を求めます。

1. 知識と技能

入学までに履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する者、もしくは同等の知識と技能を有する者

2. 思考・判断力と表現力

人や社会、自身が目指す将来キャリアについて、これまで習得した知識や情報をもとにして、筋道を立てて自分の考えをまとめ、それを文章や口頭で表現できる者

3. 主体性と協働的態度

社会的な活動に主体的に、かつ他者とコミュニケーションをとりながら協働して取り組むことのできる者

4. 興味と意欲

経営学を中心とする本学科での学びに興味を持ち、その学びを自らの将来キャリアをデザインするための知識・技能として活用しようとする意欲を有する

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページに「大学情報の公表」として掲載している。

<https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kouhyou.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2 人	—					2 人
文学部	—	26 人	14 人	6 人	2 人	0 人	48 人
教育学部（教員養成以外）	—	16 人	12 人	1 人	0 人	1 人	30 人
健康・スポーツ科学部	—	16 人	4 人	2 人	0 人	2 人	24 人
生活環境学部	—	15 人	19 人	1 人	0 人	5 人	40 人
食物栄養科学部	—	20 人	13 人	3 人	3 人	14 人	53 人
建築学部	—	14 人	7 人	1 人	2 人	2 人	26 人
音楽学部	—	10 人	3 人	1 人	0 人	0 人	14 人
薬学部（4 年制）	—	8 人	1 人	1 人	2 人	5 人	17 人
薬学部（6 年制）	—	22 人	7 人	7 人	5 人	16 人	57 人
看護学部	—	14 人	2 人	6 人	20 人	0 人	42 人
経営学部	—	9 人	2 人	3 人	2 人	0 人	16 人
教養部	—	3 人	1 人	3 人	0 人	0 人	7 人
附置研研究所	—	11 人	2 人	0 人	4 人	9 人	26 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1 人		475 人					476 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/index.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
学長の下、委員長・副委員長以下、学部学科及び事務部門等から選出された委員で構成されたFD推進委員会を中心として、教員の資質向上や、主体的・恒常的に行う授業の内容及び方法の改善・向上に資する全学的な取組みを行っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	510 人	466 人	91%	2174 人	2,176 人	100%	67 人	73 人
教育学部	240 人	256 人	106%	1010 人	997 人	99%	25 人	30 人
健康・スポーツ科学部	180 人	220 人	122%	760 人	823 人	108%	20 人	19 人
生活環境学部	315 人	354 人	112%	1550 人	1,633 人	105%	20 人	30 人
食物栄養科学部	280 人	306 人	109%	855 人	794 人	93%	15 人	12 人
建築学部	85 人	92 人	108%	255 人	271 人	106%	0 人	0 人
音楽学部	50 人	40 人	80%	200 人	165 人	83%	0 人	0 人

薬学部	250人	175人	70%	1420人	1,193人	84%	0人	0人
看護学部	80人	101人	126%	320人	332人	104%	0人	0人
経営学部	200人	188人	94%	600人	613人	102%	0人	0人
合計	2190人	2198人	100%	9144人	8,997人	98%	147人	164人
(備考) ・編入学者数には、「若干名」で募集し入学した学生を含む。(教育学部1名・生活環境学部2名)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	724人 (100%)	23人 (3.2%)	646人 (89.2%)	55人 (7.6%)
健康・スポーツ科学部	165人 (100%)	4人 (2.4%)	152人 (92.1%)	9人 (5.5%)
生活環境学部	492人 (100%)	41人 (8.3%)	434人 (88.2%)	17人 (3.5%)
音楽学部	37人 (100%)	5人 (13.5%)	29人 (78.4%)	3人 (8.1%)
薬学部	225人 (100%)	4人 (1.8%)	191人 (84.9%)	30人 (13.3%)
看護学部	88人 (100%)	6人 (6.8%)	80人 (90.9%)	2人 (2.3%)
合計	1,731人 (100%)	83人 (4.8%)	1,532人 (88.5%)	116人 (6.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) (進学先) 武庫川女子大学大学院、大阪公立大学大学院、兵庫教育大学大学院、森ノ宮医療大学 (就職先) 兵庫県、大阪府、大阪市、神戸市、株式会社 アイホールディングス、株式会社 ココカラファイン、横浜市、学校法人 兵庫医科大学、株式会社 スギ薬局、地方独立行政法人 神戸市民病院機構、日清医療食品 株式会社、日本調剤 株式会社、ウエルシア薬局 株式会社、医療法人 医誠会、堺市、社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会、学校法人 武庫川学院、エームサービスジャパン 株式会社、クオール株式会社、医療法人 徳洲会、岡山県、加古川市、学校法人 関西医科大学、株式会社 LAVA International、株式会社 アイセイ薬局、株式会社 キリン堂、株式会社 コスモス薬品、イオンリテール 株式会社、ゲンキー 株式会社、医療法人 協和会、茨木市、株式会社 ココカラファイン ヘルスケア、株式会社 なの花西日本、株式会社 阪急オアシス、国立大学法人 神戸大学、佐竹食品 株式会社、三田市、宗教法人 在日本南プレスビテリアンミッション、積水ハウスリフォーム 株式会社、尼崎信用金庫、姫路市、兵庫信用金庫、豊中市、和歌山県等 (4人以上採用されている企業を掲載) (備考) 就職先は4人以上の就職実績があり、採用の多い順からピックアップ				

教育学部・食物栄養科学部・建築学部・経営学部は未完成につき卒業生なし。

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	646人 (100%)	599人 (92.7%)	1人 (0.2%)	20人 (3.1%)	26人 (4.0%)
健康・スポーツ科学部	149人 (100%)	140人 (94.0%)	0人 (0%)	3人 (2.0%)	6人 (4.0%)
生活環境学部	466人 (100%)	446人 (95.7%)	2人 (0.4%)	7人 (1.5%)	11人 (2.4%)
音楽学部	38人 (100%)	36人 (94.7%)	0人 (0%)	2人 (5.3%)	0人 (0%)
薬学部	232人 (100%)	170人 (73.3%)	24人 (10.3%)	25人 (10.8%)	13人 (5.6%)
看護学部	90人 (100%)	86人 (95.6%)	0人 (0%)	1人 (1.1%)	3人 (3.3%)
合計	1,621人 (100%)	1,477人 (91.1%)	27人 (1.7%)	58人 (3.6%)	59人 (3.6%)
(備考) 2018年度入学者(4年制) 2016年度入学者(6年制) 留年に原級留置含む 中途退学者に除籍者含む 留年していない卒業延期はその他に含む 転学部等は調査対象のみカウント 薬学部では薬学科で設定している進級要件に満たなかった学生が留年となっている。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)	
＜シラバス作成過程＞	
前年度	
8月	シラバス作成依頼文・作成要領の校正開始
10月	シラバス作成要領、作成日程等を会議で諮る 会議後、各教員へシラバス作成依頼
12月	学長より各学科長にシラバス点検依頼（予告）
11月～1月	各教員シラバス作成
1月	各学科長より各学科教員作成のシラバス点検・修正依頼
2月	各学科長より学長へ点検結果報告書 提出
3月	教育支援システムでシラバス閲覧可能
当年度	
4月	ホームページで公表

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
<p>授業科目の成績評価における妥当性、信頼性及び公平性を確保するために、「成績評価に関する規程」を設け、教員に配付し周知徹底を図っている。また学部教授会や成績評価の依頼文書により成績評価の厳格化を説明している。なお、成績評価については評価の妥当性、信頼性及び公平性の観点から、試験及び平素の学習状況（授業内容に関する小レポート・小テスト、口頭発表、課題及び授業への積極的な参加度など）を総合して行うものとしており、あらかじめシラバスに評価方法を明示し、その評価方法・基準に従って厳格かつ適正に評価している。</p>

また、卒業又は修了の認定に当たっての基準については、
 ①卒業又は修了認定にあたり、本学の定める修業年限以上在学し、履修方法に従って卒業単位数以上を修得することが前提条件となる。
 ②①を前提条件として学科別のディプロマ・ポリシーにより、学生が身につけるべき能力・資質の目標を明示し、目標を達成した学生に対し、教授会の意見を聴いて学長が卒業の認定をする。卒業が認定されたものには、学士の学位を授与する。なお、ディプロマ・ポリシーはホームページで公表している。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	日本語日本文学科	124 単位	有	49.5 単位
	英語文化学科	124 単位	有	49.5 単位
	心理・社会福祉学科	124 単位	有	49.5 単位
教育学部	教育学科	124 単位	有	49.5 単位
健康・スポーツ 科学部	健康・スポーツ 科学科	124 単位	有	49.5 単位
生活環境学部	生活環境学科	124 単位	有	49.5 単位
	食物栄養学科	124 単位	有	49.5 単位
	情報メディア学科	124 単位	有	49.5 単位
	建築学科	128 単位	有	49.5 単位
食物栄養科学部	食物栄養学科	124 単位	有	49.5 単位
	食創造科学科	124 単位	有	49.5 単位
建築学部	建築学科	128 単位	有	49.5 単位
	景観建築学科	128 単位	有	49.5 単位
音楽学部	演奏学科	124 単位	有	49.5 単位
	応用音楽学科	124 単位	有	49.5 単位
薬学部	薬学科	190 単位	有	49.5 単位
	健康生命薬科学科	124 単位	有	49.5 単位
看護学部	看護学科	127 単位	有	49.5 単位
経営学部	経営学科	124 単位	有	43.5 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページに「大学情報の公表」として掲載している。
<https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kouhyou.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考
文学部	日本語日本文学科 (1年次)	895,000円	200,000円	200,000円	教育充実費
	(2年次)	935,000円	—円	200,000円	教育充実費
	(3年次)	935,000円	—円	200,000円	教育充実費
	(4年次)	935,000円	—円	200,000円	教育充実費
	英語文化学科 (1年次)	895,000円	200,000円	200,000円	教育充実費
	(2年次)	975,000円	—円	200,000円	教育充実費
	(3年次)	975,000円	—円	200,000円	教育充実費
	(4年次)	975,000円	—円	200,000円	教育充実費
	教育学科 (4年次)	995,000円	—円	230,000円	教育充実費
	心理・社会福祉学科 (1年次)	995,000円	200,000円	230,000円	教育充実費
	(2年次)	1,035,000円	—円	230,000円	教育充実費
	(3年次)	1,035,000円	—円	230,000円	教育充実費
	(4年次)	1,035,000円	—円	230,000円	教育充実費
教育学部	教育学科 (1年次)	995,000円	200,000円	230,000円	教育充実費
	(2年次)	1,035,000円	—円	240,000円	教育充実費
	(3年次)	1,035,000円	—円	240,000円	教育充実費
	(4年次)	1,035,000円	—円	240,000円	教育充実費
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科 (1年次)	995,000円	200,000円	256,000円	教育充実費、野外実習費
	(2年次)	1,035,000円	—円	290,000円	教育充実費、野外実習費
	(3年次)	1,035,000円	—円	270,000円	教育充実費
	(4年次)	1,035,000円	—円	270,000円	教育充実費
生活環境学部	生活環境学科 情報メディア学科 (1年次)	995,000円	200,000円	250,000円	教育充実費
	(2年次)	1,035,000円	—円	250,000円	教育充実費
	(3年次)	1,035,000円	—円	250,000円	教育充実費
	(4年次)	1,035,000円	—円	250,000円	教育充実費
	食物栄養学科 (4年次)	1,035,000円	—円	400,000円	教育充実費、実験実習費
	建築学科 (4年次)	1,140,000円	—円	400,000円	教育充実費、実験実習費
食物栄養科学部	食物栄養学科 (1年次)	995,000円	200,000円	300,000円	教育充実費、実験実習費
	(2年次)	1,035,000円	—円	400,000円	教育充実費、実験実習費
	(3年次)	1,035,000円	—円	400,000円	教育充実費、実験実習費
	食創造科学科 (1年次)	995,000円	200,000円	300,000円	教育充実費、実験実習費

	(2年次)	1,035,000円	—円	400,000円	教育充実費、実験実習費
	(3年次)	1,035,000円	—円	400,000円	教育充実費、実験実習費
建築学部	建築学科 (1年次)	1,120,000円	200,000円	380,000円	教育充実費、実験実習費
	(2年次)	1,140,000円	—円	400,000円	教育充実費、実験実習費
	(3年次)	1,140,000円	—円	400,000円	教育充実費、実験実習費
	景観建築学科 (1年次)	1,120,000円	200,000円	380,000円	教育充実費、実験実習費
	(2年次)	1,140,000円	—円	400,000円	教育充実費、実験実習費
	(3年次)	1,140,000円	—円	400,000円	教育充実費、実験実習費
音楽学部	演奏学科 (1年次)	1,370,000円	200,000円	330,000円	教育充実費
	(2年次)	1,440,000円	—円	330,000円	教育充実費
	(3年次)	1,440,000円	—円	330,000円	教育充実費
	(4年次)	1,440,000円	—円	330,000円	教育充実費
	応用音楽学科 (1年次)	1,370,000円	200,000円	350,000円	教育充実費、実務実習費
	(2年次)	1,440,000円	—円	330,000円	教育充実費
	(3年次)	1,440,000円	—円	330,000円	教育充実費
	(4年次)	1,440,000円	—円	330,000円	教育充実費
薬学部	薬学科 (1年次)	1,502,000円	200,000円	362,000円	教育充実費
	(2年次)	1,532,000円	—円	490,000円	教育充実費、実験実習費
	(3年次)	1,532,000円	—円	490,000円	教育充実費、実験実習費
	(4年次)	1,532,000円	—円	458,000円	教育充実費、実験実習費
	(5年次)	1,502,000円	—円	458,000円	教育充実費、実験実習費
	(6年次)	1,502,000円	—円	436,000円	教育充実費、実験実習費、学生研修費
	健康生命薬科学科 (1年次)	1,130,000円	200,000円	370,000円	教育充実費
	(2年次)	1,170,000円	—円	530,000円	教育充実費、実験実習費
	(3年次)	1,170,000円	—円	530,000円	教育充実費、実験実習費
	(4年次)	1,170,000円	—円	530,000円	教育充実費、実験実習費
看護学部	看護学科 (1年次)	1,347,000円	200,000円	328,000円	教育充実費
	(2年次)	1,367,000円	—円	328,000円	教育充実費
	(3年次)	1,367,000円	—円	328,000円	教育充実費
	(4年次)	1,367,000円	—円	328,000円	教育充実費、学生研修費
経営学部	経営学部 (1年次)	800,000円	200,000円	200,000円	教育充実費
	(2年次)	1,000,000円	—円	200,000円	教育充実費
	(3年次)	1,000,000円	—円	200,000円	教育充実費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 教務部では、教育支援システムの運用を通して、履修、授業運営、試験、成績、学籍に関するサポートと、学修に関わる情報提供を行い、学生が専門分野の知識や幅広い教養を身に付けることができるように支援している。国際センターは、留学プログラムの実施や留学相談、外国語運用能力向上のための支援を行っている。また、海外からの留学生のサポートや交流イベントを実施。附属図書館では、教育・研究活動を支援するために学術情報基盤の構築を遂行。館内利用の情報に加え、電子情報の提供促進も図っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリアセンターでは入学直後から継続的に進路選択に関して支援。タイムリーな情報提供と個別就職相談などのきめ細かい指導で、就職活動をサポートしている。学校教育センターは教員免許状・保育士資格の取得、採用選考試験受験や就職をサポートしている。そのほか、「編入学」の募集情報や手続き・試験の実施内容等を掲載した資料を公開。大学卒業後、学部で身に付けた知識をさらに深めるため、あるいは専門の学問を究めるために、大学院へ進学する学生への情報提供も行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 健康サポートセンターは、学生の健康の保持増進、疾病の早期発見や予防を支援するとともに、将来の生活習慣病予防のための取り組みに力を入れている。学生相談センターでは、学生相談およびグループ・プログラム等を通して、学生生活におけるこころの健康と成長を目指した支援を行っている。学生サポート室では修学支援として、授業や学生生活で困りごとのある学生の相談を受け、すべての学生が等しい条件の下で学べるよう必要なサポートを実施。学内外の関係部署との連携や、サポートスタッフ学生の募集・育成も行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページに「大学情報の公表」として掲載している。 https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kouhyou.html
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F128310108883
学校名	武庫川女子大学
設置者名	学校法人武庫川学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		622人	602人	653人
内 訳	第Ⅰ区分	383人	384人	
	第Ⅱ区分	146人	135人	
	第Ⅲ区分	93人	83人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				661人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	-		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	-		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	16人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）				
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	44人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	-		
計	44人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。